

令和2年度行政事業レビューシート(復興庁)

事業名	食品汚染物質の安全性検証推進事業			担当部局	復興庁		作成責任者			
事業開始年度	平成25年度	事業終了(予定)年度	令和23年度	担当課室	統括官付参事官(予算・会計担当)		参事官 増田 直樹			
会計区分	東日本大震災復興特別会計									
根拠法令(具体的な条項も記載)	食品衛生法第13条			関係する計画、通知等	食安発0315第1号食品安全部長通知「食品、添加物等の規格基準の一部を改正する件について」等					
主要政策・施策	-			主要経費	その他の事項経費					
事業の目的(目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	食品中の放射性物質の基準値(平成24年4月施行)について、食品中の放射性物質の含有状況や摂取状況を調査し継続的に検証を行うことにより、食品の安全性を確保する。									
事業概要(5行程度以内。別添可)	食品中の放射性物質の含有状況調査及び年齢、地域、季節ごとの実際の食品からの放射性物質の摂取量調査を行う。									
実施方法	直接実施、委託・請負									
予算額・執行額(単位:百万円)		平成29年度	30年度	令和元年度	2年度	3年度要求				
	予算の状況	当初予算	77	76	76	76	76			
		補正予算	-	-	-	-	-			
		前年度から繰越し	-	-	-	-	-			
		翌年度へ繰越し	-	-	-	-	-			
		予備費等	-	-	-	-	-			
	計	77	76	76	76	76				
	執行額	75	75	75	75					
執行率(%)	97%	99%	99%	99%						
当初予算+補正予算に対する執行額の割合(%)	97%	99%	99%	99%						
令和2・3年度予算内訳(単位:百万円)	歳出予算目	2年度当初予算	3年度要求	主な増減理由						
	食品等試験検査費	75	75							
	職員旅費	1	1							
	委員等旅費	0	0							
	庁費	0	0							
	諸謝金	0	0							
	計	76	76							
成果目標及び成果実績(アウトカム)	定量的な成果目標	成果指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標最終年度 -年度	
	-	-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
	-	-	目標値	-	-	-	-	-	-	
	-	-	達成度	%	-	-	-	-	-	
定量的な成果目標の設定が困難な場合	定量的な目標が設定できない理由及び定性的な成果目標	定量的な目標が設定できない理由			定性的な成果目標と平成29～令和元年度の達成状況・実績					
	事業の妥当性を検証するための代替的な達成目標及び実績	代替目標	代替指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 -年度	目標最終年度 23年度
	放射性セシウムから1年間に受ける放射線量の推定	マーケットバスケット試料の測定試料数	実績	試料数	420	420	420	-	-	
			目標値	試料数	420	420	420	-	420	
			達成度	%	100	100	100	-	-	

活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度 活動見込	3年度 活動見込
	マーケットバスケット試料中の放射性セシウム濃度の測定	活動実績	試料数	420	420	420	-	-
当初見込み		試料数	420	420	420	420	420	
単位当たりコスト	算出根拠		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	2年度活動見込	
	単位当たりコスト=X/Y	単位当たりコスト	百万円	0.2	0.2	0.2	0.2	
	X:「執行額(千円)」 Y:「活動実績(試料数)」	計算式	X/Y	74,319/420	74,037/420	75,146/420	76,406/420	

政策評価、新経済・財政再生計画との関係	政策	II-1-1. 食品等の飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止すること								
	施策	-								
	測定指標	定量的指標		単位	平成29年度	30年度	令和元年度	中間目標 - 年度	目標年度 - 年度	
		-	実績値	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
	本事業の成果と上位施策・測定指標との関係									
	食品中の放射性物質の基準値(平成24年4月施行)について、食品中の放射性物質の含有状況や摂取状況の調査を実施する。このような継続的なフォローアップ調査を実施することで、食品の安全性の検証を行う。									
	新経済・財政再生計画改革工程表 2019	取組事項	分野:	-	-					
		(第一階層) KPI	KPI (第一階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度
			-	成果実績	-	-	-	-	-	-
目標値				-	-	-	-	-	-	
(第二階層) KPI		KPI (第二階層)		単位	計画開始時 - 年度	元年度	2年度	中間目標 - 年度	目標最終年度 - 年度	
		-	成果実績	-	-	-	-	-	-	
			目標値	-	-	-	-	-	-	
本事業の成果と取組事項・KPIとの関係										

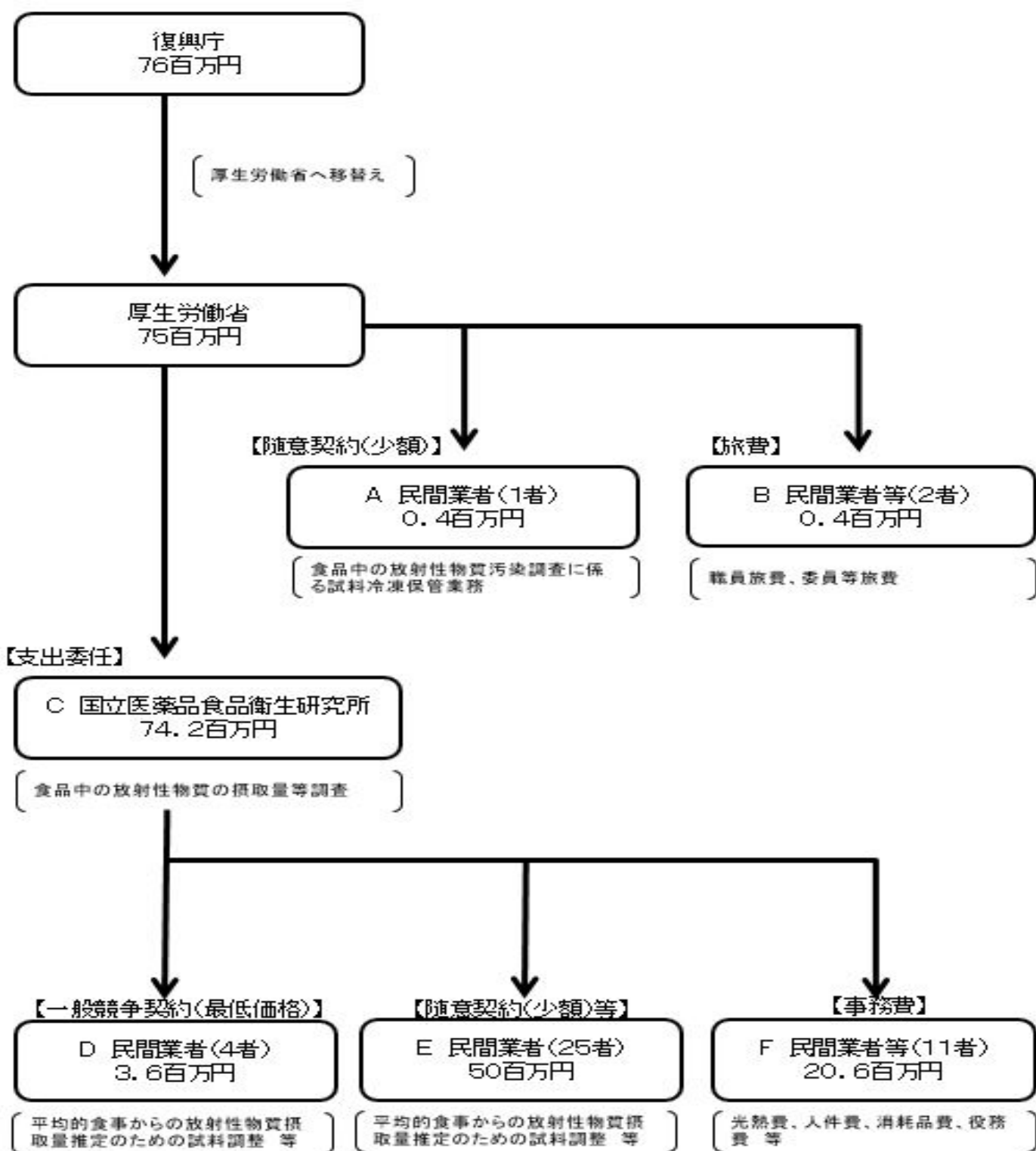
事業所管部局による点検・改善

	項目	評価	評価に関する説明
国費投入の必要性	事業の目的は国民や社会のニーズを的確に反映しているか。	○	これまでに経験がない事態であり、残留放射線量については未だ国民の関心も高く、個人の暴露量を検証することにより食品の安全性を確保する必要がある。
	地方自治体、民間等に委ねることができない事業なのか。	○	食品衛生法に基づき国が設定した基準について継続的に検証し、調査結果を国際機関へ発表することとなる本事業は、国が実施すべきものである。
	政策目的の達成手段として必要かつ適切な事業か。政策体系の中で優先度の高い事業か。	○	食品中の放射性物質の基準値について、食品中の放射性物質の含有状況や摂取状況を調査し継続的に検証を行うことにより、食品中の放射性物質の安全対策を推進する事業であり優先度が高い。

事業の効率性	競争性が確保されているなど支出先の選定は妥当か。		△	原則として、一般競争入札を利用することで、競争性を確保しながら支出先を選定しているが、結果として一者応札となったもの。今後は公告期間を長期に設定するなど、改善を図る。また、随意契約については、2者以上から見積書を取り寄せ、より安価な者と契約を行っている。			
	一般競争契約、指名競争契約又は随意契約(企画競争)による支出のうち、一者応札又は一者応募となったものはないか。		有				
	競争性のない随意契約となったものはないか。		有				
	受益者との負担関係は妥当であるか。		-	-			
	単位当たりコスト等の水準は妥当か。		○	一般競争入札による調達によりコスト削減に努めている。			
	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		-	-			
	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		○	事業の適正な遂行について、必要な経費に限定されている。			
事業の有効性	不用率が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-			
	繰越額が大きい場合、その理由は妥当か。(理由を右に記載)		-	-			
	その他コスト削減や効率化に向けた工夫は行われているか。		○	試験に用いる試料の一括購入等を行うことにより、試験の質を担保しつつ、できる限りのコスト削減に努めている。			
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。		○	目標に見合ったものとなっている。			
関連事業	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。		○	専門家、有識者の見解を踏まえ、国は事業の実施要綱において実効性のある取組を示している。			
	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		○	優先度の高いものから着実に実施している。			
	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		○	調査結果をHPで公表している。			
	関連する事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担を行っているか。(役割分担の具体的な内容を各事業の右に記載)		-	-			
点検・改善結果	点検結果	○令和元年度は一日摂取量調査による試料420検体を検査し、各地域の食品に含まれる放射性セシウムから受ける線量が現行の基準値の設定根拠となった線量上限 1mSv/年と比べ十分に小さい値(0.0005~0.0010mSv)であることを確認した。また、食品に含まれる放射性ストロンチウムの濃度は原発事故以前の範囲内、プルトニウムの濃度は検出限界値未満であることを確認した。 ○調査は福島県及び周辺県とその他の日本の各地域を比較して実施されており、調査結果によってそれらの同等性と安全性が示され食品の安全確保に寄与していることから、被災地の経済活動・市民生活へ直接的な影響を与えたとともに、また、日本全国や海外での食品への信頼を確保する上で極めて有効である。また、本事業によって得られたデータは、基準値の継続的な検証にも活用できるものである。					
	改善の方向性	適切に予算を執行し、事業の目標が達成できており、このまま継続して事業を実施する。また、引き続き、なお一層効率的かつ効果的に事業が実施されるよう、調査方法や頻度等について検証する。					
外部有識者の所見							
対象外							
行政事業レビュー推進チームの所見							
現状通り	食品中の放射性物質の含有状況や摂取状況を調査し、継続的に検証を行う必要性の高い事業である。引き続き効率性に留意し、予算の執行を進めること。						
所見を踏まえた改善点/概算要求における反映状況							
現状通り	-						
備考							
関連する過去のレビューシートの事業番号							
平成22年度	-	平成23年度	-	平成24年度	-	平成25年度	新25-032
平成26年度	103	平成27年度	0102	平成28年度	0079	平成29年度	0064
平成30年度	0063						
平成31年度	復興庁 (0066)						

※令和元年度実績を記入。執行実績がない新規事業、新規要求事業については現時点で予定やイメージを記入。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を
行っているかについて
補足する)
(単位: 百万円)



費目・用途
(「資金の流れ」に
おいてブロックご
とに最大の金額が
支出されている者
について記載す
る。費目と用途の
双方で実情が分
かるように記載)

A.			B.		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
		0			0
計			計		
C.国立医薬品食品衛生研究所			D.株式会社フロンティア・サイエンス		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
役務費	食品中の放射性物質の摂取量等調査	74.2	物品費	質量分析装置 修理作業 一式	2.1
計		74.2	計		2.1
E.一般財団法人日本食品分析センター			F. 資金前渡官吏		
費目	用途	金額 (百万円)	費目	用途	金額 (百万円)
役務費	平均的食事からの放射性物質摂取量推定のための試料調製一式 他1件	23.1	人件費	給与・賞与	4.8
計		23.1	計		4.8

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社二葉	2010401026062	食品等放射線汚染調査に係る試料冷凍保管等業務一式	0.4	随意契約(少額)	-	100%	-

B

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	個人A	-	出張旅費1件	0.2	その他	-	-	-
2	個人B	-	出張旅費1件	0.2	その他	-	-	-

C

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	国立医薬品食品衛生 研究所	-	食品中の放射性物質の摂 取量等調査	74.2	その他	-	-	-

D

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	株式会社フロンティア・サイエンス	9430001032924	質量分析装置 修理作業 一式	2.1	一般競争契約 (最低価格)	1	91.6%	-
2	株式会社鈴木商館	3011401003348	液体窒素等 他10件	1	一般競争契約 (最低価格)	4	96%	-
3	株式会社東機システムサービス	3010401019131	パソコン 15台	0.4	一般競争契約 (最低価格)	3	85.9%	-
4	株式会社一和堂	8010901001245	パソコン 2台	0.1	一般競争契約 (最低価格)	4	72%	-

E

	支出先	法人番号	業務概要	支出額 (百万円)	契約方式等	入札者数 (応募者数)	落札率	一者応札・一者応募又は 競争性のない随意契約となった 理由及び改善策 (支出額10億円以上)
1	一般財団法人日本食品分析センター	3011005000295	平均的食事からの放射性 物質摂取量推定のための 試料調製一式 他1件	23.1	随意契約 (公募)	-	100%	-
2	尾崎理化株式会社	2021001016122	MDF-U731M-PJ メ ディカルフリーザー MDF -U731M-PJ 他149件	11.6	随意契約 (少額)	-	100%	-
3	株式会社池田理化	3010001010696	S700FRフロア型冷却遠心 他37件	5	随意契約 (少額)	-	100%	-
4	株式会社伊藤サプライ	2010901001143	キャノンプリンターLBP851 C 他21件	2	随意契約 (少額)	-	100%	-
5	日本電子株式会社	9012801002438	フィラメント 811479471 他2件	1.4	随意契約 (少額)	-	100%	-
6	株式会社鈴木商館	3011401003348	高純度ヘリウムガス 他4 件	0.9	随意契約 (少額)	-	100%	-
7	ミリオンテクノロジー ズ・キャンベラ株式会 社	9010501030346	既設放射能測定装置 3式 点検・再校正 1式	0.9	随意契約 (少額)	-	100%	-
8	株式会社カラサワ	6013201001504	ローパティション 他5件	0.8	随意契約 (少額)	-	100%	-
9	株式会社千代田テク ノル	7010001004851	中型灰化炉 部品交換作業 1式 他1件	0.7	随意契約 (少額)	-	100%	-
10	富士ゼロックス神奈 川株式会社	4020001025949	レッツノートSV8 他2件	0.6	随意契約 (少額)	-	100%	-

